上田地域もの･こと交換制度
蚕都くらぶ

ま～ゆ

蚕都くらぶ･ま～ゆ会報 No.124 2020年10月20日発行

わたしたちの願い

蚕都くらぶ・ま～ゆという上田地域通貨モノコト交換制度は、地域で暮らすひとびとがお互いに助け合って楽しく暮らすための制度です。

私たちは、この地域の豊かな自然やひとびとの知恵･技術･経験･人柄を地域の宝と考えます。その宝を活用することで、より豊かな地域と人間関係を目指しています。

蚕都くらぶ・ま～ゆは、地域通貨を使って人と地域をつなぐシステムです。

- ❖ 人と人との新しい関係が生まれます。
- ❖ 自分の能力を再発見できます。
- ❖ 人が活き活きすることで、地域が元気になります。

上田発のドキュメンタリー映画 もうひとつの明日へ 完成迫る！

～もし、いま〝お金が〟世界からなくなったとしても 豊かな暮らしのヒントはここにある。～

「もうひとつの明日へ」制作委員会 ケセラ

コロナ禍での映画制作

2019 年 1 月の繭玉ま～ゆ市から撮影がスタートしたドキュメンタリー映画「もうひとつの明日へ」は、今年 2020 年 3 月の味噌仕込み作業で撮影は一段落。その後、500 時間に上る映像の編集作業が監督の孟さん、プロデューサーの小川さん、編集者の進さんの 3 人を中心に岡山で始まる予定でした。

ところが、予想もしなかった新型コロナウイルスの感染拡大が世界中を覆い 4 月初めには全国に緊急事態宣言が出され自由な往来の禁止や活動の自粛を余儀なくさせられました。これからどうなってしまうのだろうか？という不安を抱えながらも何とか映画を完成させたいと新たな挑戦の日々が始まりました。

制作メンバーが一堂に会することが困難な中、千葉大チームとは、チラシ、ポスター、パンフレットの制作会議を、映像編集は岡山の小川さん、進さんも加わって全体編集会議を何度もオンラインで開きました。オンラインは、まどろっこしい反面、遠方の人も大勢参加できる利点もあります。こうして、何とか 9 月下旬に映像本編の粗編集やチラシ、ポスター、パンフレットの制作作業も終わり、完成までもう一息のところまで来ました。

映画構成 chapter ①～⑥

映画は

① エンデの遺言から始まる「ま～ゆ」。

② ま～ゆを遊ぶ。

③ タネをまくと。

④ 「みんなの家」をつくる。

⑤ ま～ゆからの一歩。

⑥ 「明日へ」の 6 つの chapter で構成されています。みなさんの生きいきとしたありのままの姿が、あのシーン、このシーンで出てきます。更に chapter③と④の間には、〝時には昔の話を〟として「塩田平のため池と雨乞いのまつり」が、④と⑤の間には、「孟さんの故郷中国東北部に住むおじさんの思い出とエピソード」が、アニメーションで挿入されています。音楽とアニメーションがうまく溶け合ってとても幻想的で、映画に彩りと深みを添えています。

〝みんなでシェアする映画づくり〟

〝みんなでシェアする映画づくり〟を合言葉に、撮影やインタビューにと、様々に協力してくださったま～ゆのみなさんをはじめ、チラシ、ポスター、パンフレット制作に若い力を発揮して下さった千葉大学デザイン文化計画研究室のみなさん、岡山の L&R プロダクションの小川さん、進さんという映画づくりのプロの方と、孟さんの友人でイギリスに留学中のアニメーション制作者バード・ジンさんと、本当にたくさんの人たちが、この映画作りに関わってくださいました。つながりが新たなつながりを生み、思いがけない力が引き出されるのを実感した日々でした。まさに〝瓢箪から駒〟

さらに、映画作りを発案した時には予想もしなかった多くの方々が、制作費を募る寄付やクラウドファンディングなどでご支援を寄せてくださいました。とても励みになり、嬉しかったです。

ご協力いただいた皆様に、改めて御礼を申しあげます。ありがとうございました。

上田のお披露目上映会 11 月８日（日）に決定！！

待ちに待った上田でのお披露目上映会が 11 月 8 日に上田映劇で開催できる事になりました。

今回は、コロナ禍の影響も考慮し定員を 100 名以内に絞り、予約制の鑑賞券として、参加者が把握できるようにしました。ご寄付して下さった方には事前に鑑賞券をお送りいたします。

“みんなでシェアする映画づくり„は上映会後もつづきます。映画はつくって終わりではありません。皆さんに見てもらい、上映会を通して一緒に未来に希望をつなげたらいいなと願っています。

改めて皆さんに、引き続きのご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いします。

お披露目上映会　◆日 時:11 月 8 日(日)　◆会 場:上田映劇

★第１回上映　13:30～（開場 13:00）　※マスク着用をお願いします
★監督舞台挨拶＆トークライブ　14:50～
★第２回上映　15:30～

プチマーケットあります

◆鑑賞券:1000 円（要予約）　◆定 員:100 人
◆チケット予約・問合せ先 ☎0268-27-3186(安井)　ﾒｰﾙ:meili@ued.janis.or.jp
主 催　蚕都くらぶ・ま～ゆ

地域通貨で地域づくり 上田の「ま～ゆ」20年
ドキュメンタリー映画制作へ

上田市の蚕都くらぶ・ま～ゆ（安井啓子代表世話人、１７０人）は、ま～ゆの20年の活動を振り返りながら、未来を展望するドキュメンタリー映画「もうひとつの明日（あした）へ」を制作している。「千葉大学デザイン文化計画研究室」、「L&Rプロダクション」との協働。80万円を目標に、制作にかかる資金の寄付をクラウドファンディングで募っている。今月20日まで。

今月20日まで資金募る

蚕都くらぶ・ま～ゆは２００１年11月に上田市で発足。小学生から80代の幅広い年齢の人が参加し、地域通貨「ま～ゆ」のやりとりを通じて、暮らしの知恵、技術、経験など地域の財産を共有している。

２０１７年、地域通貨について調査する千葉大学大学院生で中国からの留学生、孟晗（もうがん）さんが、ま～ゆの活動を知り動画撮影を開始。その後、岡山で映画やまちづくりに携わる「L&Rプロダクション」の小川孝雄さんと協働して映画化を企画。今春から、県の「地域発元気づくり支援金」を活用して編集を進めてきた。

寄付（クラウドファンディング）を募集するページ＝MOTION GALLERY のサイトから

プロジェクトの代表で、ま～ゆ世話人の安井さんは「経験したことがない新型コロナの対応にあたふたしている今、今までの暮らしのありようを見つめなおす機会」とし、「つながりが新たなつながりをつくる意味や面白さに気づかされた。住民一人ひとりが持続可能な社会をつくる主人公であることを発信したい」としている。

上映会は11月８日に上田映劇で予定。オンライン上映会も検討中。

東信ジャーナル
10月1日

ささらの湯に集合して、乗り合わせの形にご協力いただき、暑い中にも関わらず、扇風機を持ち寄って14 名の方にお集まりいただきました。

はじめはそれぞれの近況報告。

・毎日暑いので、早朝の時間帯にウォーキングをしてみたら、とっても気持ち良い。

・生ゴミ捨て場から、身に覚えのないカボチャがたくさん出てきて、大収穫で嬉しいけど不思議だな。

・89 歳になった母親と百人一首の読み合わせをして、脳トレをしながらのコミュニケーションを楽しんでいる。

・犬の散歩中に出会う女性とのエピソード。

・身近に起こったパラレルワールドの不思議な話。

・エンディングチームでの会合で聞いた話が参考になった。

・訪問診療に関する話。

・今年の鮎は、大雨続きだった梅雨のせいか暑さのせいか、サイズが小さい。

などなど、様々なお話を聞く事ができました。

ひなちゃんからは、今月末で地域おこし協力隊の仕事が終了し、来月から観光会館 2 階の新しい職場に勤務する事になりました、と報告がありました。3 年間、上田市の魅力をひなちゃんらしい表現で地元内外に紹介し、発信し続けてきてくれました。ま～ゆの事も多くの方に紹介し、興味を持ってもらえるきっかけ作りをしてきてくれました。

そんなひなちゃんに、これまでの労いとこれからの激励の気持ちを込めた、大きな拍手が送られました。

次に、以前から話し合っている、みんなの家のトイレの改修案について、意見交換しながら改修資金の捻出方法についての話し合いが行われました。

みんなで安心して使えるトイレにするため、協力金という形で寄付のお願いをしたらどうか？

チャリティーバザーのような企画をして、その収益を改修資金にあてては？

など、様々なご意見をいただきました。

これらの意見を踏まえながら、考えをまとめ、進めていきたいと思います。

出店は、辛口屋のお茶、ニシちゃんの包丁研ぎ、うらさとハーブ園のハーブティーでした。

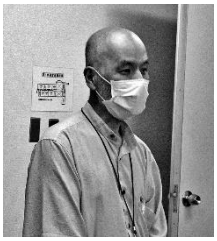
出店の希望は、これからも随時受付中です。手作りの作品やお野菜、お花、雑貨などの出店をして、ぜひ廿日市を盛り上げていただきたいと思います。

10 日、上田地域ではコロナの警戒レベルが 4 のままで、開催を心配しましたが、常連の方やお久しぶりの方と一緒に、いつも通り無事に開くことができました。今月は殿下が司会を担当してくれました。

モノコト交換市

・カボチャ、長ネギ、大根の間引き菜など(トムさ)・「モモ」などの読み終えた本(シンコちゃん)・ポップコーン用のもろこし(にゃんこ先生)

モノと一緒にお互いの情報交換もあり、にぎやかに進みました。



9 月のハッピーバースデー

ヒデさん、そだっちのお二人をお祝いしました。

ヒデさんは 65 歳になり、めでたく高齢者の仲間入り。今後は仕事量を減らし、映画を 100 本見る。俳句を 100 句つくる。本を 100 冊読むを目標にしているそうです。

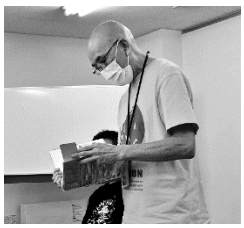
そだっちは 2 回目の 24 歳を迎えました。

巷では可愛いおじさんブームだそうで、料理や可愛い系グッズ集めなどしたいとのこと。また、お母様の新盆でお寺さんの「人の心の中で思い出してもらえるうちは生き続けている」という言葉を聞き、自分も人の役に立てることをして毎日しっかり過ごしていきたいと話されました。

インフォメーション

＊9/13 脱原発つながるパレードについて(ヒデさん)＊9/20『離れていても心は一つだ』廿日市開催(あやちゃん)＊みんなの家のトイレ改修の寄付ご協力について(あやちゃん)＊みんなの家のトイレ改修工事スタート 9/13 について(陶吉さん)＊10/3 ま～ゆ田んぼの稲刈り(ごんべさん)＊10 月ま～ゆ市は昼間の開催について(ケセラ)＊牛伏山登山について(ノセさん)＊会報原稿募集について(都々平さん)＊YouTube 動画「学びラウンジ」の紹介(アントさん)＊「もうひとつの明日へ」制作進捗状況と寄付について(ケセラ)

絵本紹介　9 月 21 日の国際ピースデーにちなみ「平和について考える」本を紹介しよう



・「へいわってどんなこと？」浜田桂子著(日・中・韓平和絵本)・「ぼくのこえがきこえますか」田島征三著(日・中・韓平和絵本)・「戦争なんか大きらい！」絵描きたちのメッセージ子どもの本・九条の会(著)・「へいわってすてきだね」安里有生(詩文)※6 月 23 日沖縄慰霊の日の式典で、与那国町の小学 1 年生安里有生君の詩に絵本作家長谷川義史さんが絵をつけ絵本になりました。・「新・戦争のつくり方」りぼんぷろじぇくと絵本・『へいわってどんなこと？』の読み。

その後

現在の政治の現状(自民党総裁選など)や年々軍事費が増え続け軍事大国化していくこと、メディア情報に流されるのことへの心配など様々な意見が出ました。徐々に戦争のできる国になっていくようで心が落ち着きません。誰かの足を踏みつけることで成り立つ平和や繁栄はあり得ません。

結論が出なくても、ときにはじっくり考え話し合うことも大事だと意見を聞きながら思いました。また、テーマを決めてそんな機会も持ちたいですね。嫌だと感じたら、声をあげましょう。黙っていたら何も変わらないから…。

世話人会ケセラ

廿日市だより（はつかいち）

雨の予報に反して天候に恵まれた9月20日、無事に廿日市を開催。日曜日だった事もあり、子どもさんや久しぶりに来られた方、初めての方も含め計26名の方にご参加いただきました。

今回は、ひなちゃんのミニ企画、顔にあるほくろの位置で診断!?「ほくろ占い」が大好評☆お隣さん同士で顔を見合わせながら、ワイワイにぎやかなお楽しみコーナーとなりました。今後もひなちゃんによるミニ企画がありそうなので、乞うご期待です!!

庭先ではニシちゃんが、子ども達に竹トンボ作りをして楽しませてくれました。

みんなの家図書館の本も、この日は子ども達に読んでもらえて嬉しそうでした。

自己紹介を兼ねたトークコーナーでは、皆さんのイキイキとした声と近況を聞く事ができました。一人の話をみんなで聞くと、色んな考えや反応が次々と出てくる事が、こうした時間の良い所だな～と改めて感じました。

インフォメーションもたくさんあったので、ご紹介します。

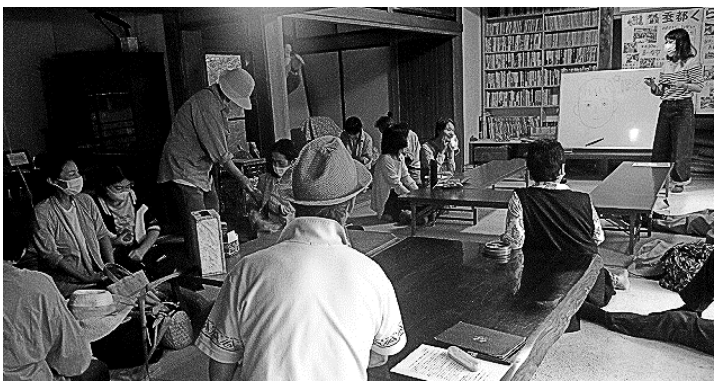
・10月1日、古里にオープンする「ピノキオ薬局」。以前はレストランだった所を、薬剤師のかおるんが、仲間とオープンさせるそうです。今日と明日がプレオープン。健康に関するご相談ができますので、気軽にお立ち寄りください。・「Bio キッキン豆結び」のお豆腐作り&おからの料理教室のお知らせ。26 日 13 時から塩田の里とっこ館にて開催。詳細、お問い合わせはとっこ館まで。（ツキトモちゃん）・ま～ゆ田んぼの稲刈り&はぜかけ作業。10 月 3 日午前 9 時から。皆さん奮ってご参加ください。（ごんべえさん）

・北海道の核ゴミ処理場反対運動の署名のお願い。（辛口さん）・間もなく完成するドキュメンタリー映画『もうひとつの明日へ』のお披露目上映会のお知らせ。11月8日午後から上田映劇にて。（ケセラさん）

そして、みんなの家トイレ改修工事について、工事の進行状況のご報告と寄付のお願いをご案内させていただきました。

今回チャリティー企画としてクッキー&パウンドケーキの販売をしました。ツキトモちゃんにもおからクッキーを出品していただき、おかげ様ですべて完売する事ができました！

募金箱に入れていただいた方もたくさんあり、ご協力いただいた皆さんに、心から感謝申し上げます。



ありがとうございました！これからも改修工事は続き、チャリティーバザーも計画中です。

今後の活動も、どうぞ宜しくお願いします！

今回はたくさんの笑い声がみんなの家に響き、活気あふれる廿日市になりました！

ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。　　文：あやちゃん

甲田はきもの店　No.39 甲田
- ご利用金額の 10%まで「ま～ゆ」をお使い下さい
- 靴、草履、下駄などの修理は20%まで使えます

上田市中央4-6-24
TEL22-1272

都市・建築工房　No.130ヒデさん(竹内秀夫)
- トラブルの多いリフォームだからこそ お任せください
- 家のことなら何でもお気軽にご相談ください
- 消費税分「ま～ゆ」が使えます

上田市御所274
TEL28-7532 fax 28-8190

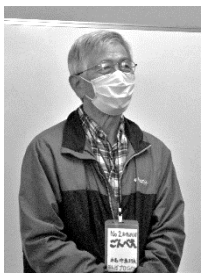
10 月のま～ゆ市

10 日土曜日の午後 1 時 30 分、今回も「だらだらま～ゆ市」とのんびり、緩やかにテーマをきめずに開きました。台風 14 号が近づいて雨が心配される中、20 人を超える方が集まりました。

モノコト交換

◊トムさ‥長ネギ、アブラナ、カボチャなど。◊ぶんちゃん‥青首大根の疎抜き、混合油。◊ミーすけ‥いろいろな大きさのスプーン、パッチワークの敷物。◊ひなちゃん‥蜜蝋のクリーム。◊いっちゃさん‥ホーロー鍋

売り上げをみんなの家のトイレ改修募金に入れる姿もありました



ハッピー・バースデー

今回はごんべえさんお一人でした。

「私も ん十ん歳になりました」と意味シンな言葉。仕事をして以前は疲れなかったのにこの頃は疲れを感じるようになりましたと挨拶。トムさが「プレゼントはネギとカボチャとどちらがいいですか」と聞くと「私はシンデレラではありませんので」ととっさのユーモアを。トムさはすかさずネギを包んで渡しました。

ケンちゃんの指揮でハッピーバースデイの歌を歌ってお祝いしました。

インフォメーション

◊北国街道まち歩き(ちゃーこさん代理かっとまん)ヒデさんの案内で 篠ノ井駅→川中島駅間を歩きます。

◊学術会議任命拒否に抗議の署名(辛口さん紹介) 長大の相川先生がインターネットで署名の呼びかけをしています。

◊サンタプロジェクト・うえだ(しげさん) クリスマスを自宅で過ごすことのできない子供たちに「画本のプレゼント」を。一緒に実行委員をやる、絵本等を協力書店で購入、活動・運営費を支援、の方法があります。

◊廿日市について(あやちゃん) みんなの家のトイレ作り。基礎のモルタル打ちが終わりました。干し柿づくりを 7 日ニシちゃんの指導で行い、柿すだれが軒下に吊り下げられました。次の廿日市は竹でカップ作りをします。

◊11 月 14 日の景観ウォッチング(ヒデさんが案内)

◊映画もうひとつの明日へ(ケセラさん) ポスターとラシができました。11 月 8 日上映会チケット渡し。

この日ま～ゆに入会した ながともさん(写真右)が「よろしくお願いします」とあいさつ。

また久しぶりに参加したばくちゃん「浦島タロコです」。いっちゃさん「会報の落語で触れた遺伝子編集と今年のノーベル科学賞がつながっています」。ひなちゃん(写真左)「地域協力隊の仕事が終了しました」。

フリートーク

人数が多かったので 3 つのグループに分かれました。どのグループもにぎやかに話し合い、隣の声がどんどん聞こえてきました。

最後にけんちゃん指導、あやちゃんのギターで「赤とんぼ」を歌って閉会に。

テーブル、いすをアルコール消毒し、掃き掃除をして、終わりにしました。

ミーすけ記

ま～ゆ田んぼ の 稲刈り報告

№2 ごんべえ

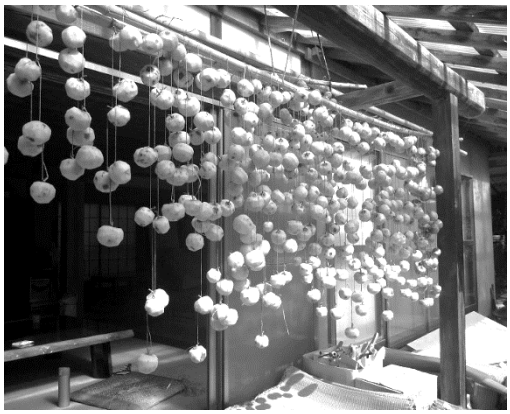
10 月 3 日、晴天に恵まれてま～ゆ田んぼの稲刈りを行いました。稲刈りと言いましたが、実際はバインダーで刈り倒した稲束をハゼに掛ける作業です。参加者 16 人プラストットちゃんのお孫さん2人が田植えに引き続いての参加で、可愛らしい華を添えてくれ、賑やかに作業を楽しみました。

今年は稲束の量が格段に少なく収量に影響しそうです（事実、天気回りの関係で 7 日に急遽脱穀したところ、例年ですと 17～8 袋/30kg とれたのですが 14 袋位しかありませんでした）。原因は①7 月の長雨、日照不足による分株不良②ごんべえ米の先祖帰りに依る赤米（改良途中で良くあるらしい）が実生で大量に発芽し邪魔をしたことが考えられます。

来年は、代掻きを 2～3 回やり、ころばし除草も徹底し、抜き取り作業で皆様のご協力を頂き、退治したいと思います。

みんなの家だより

秋が深まっていく中、あいにくの雨で肌寒い10月7日、「**干し柿ワークショップ**」を開催しました。急なお知らせにも関わらず、14 名の方にご参加いただき、心地よい日差しのもと、おしゃべりを楽しみながら柿の皮をむきました。



柿の上部の皮とヘタの部分を、包丁をグルッと回して切り落とすコツや、皮むきの方法。ちょっと複雑だけど、覚えると簡単で便利なヒモの結わえ方。ニシチャンにレクチャーしていただきながら作業をし、見事な干し柿のすだれが出来上がりました。

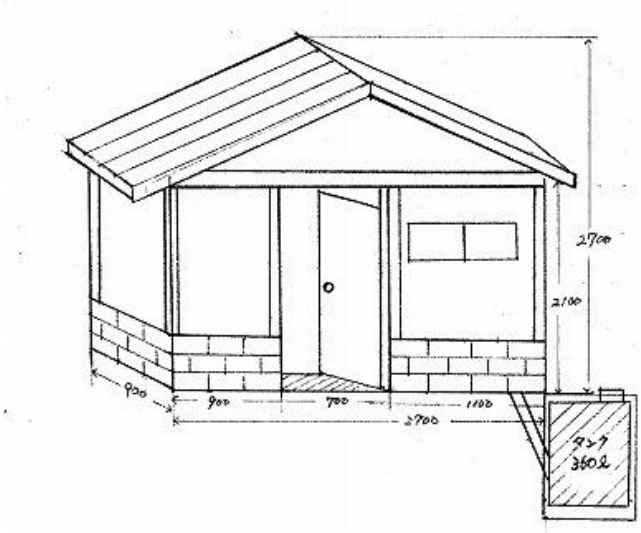
美味しい干し柿ができるかワクワクドキドキしながら、仕上がりを楽しみに待ちたいと思います。出来上がった干し柿は、トイレ改修費のチャリティーとして販売する予定です。

雨降りの前に干し柿作業ができて良かったです。ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました！

廿日市チーム、あやちゃん。

みんなの家だより

「トイレ改修工事、これまでのまとめ」



みんなの家を使い始めて数年が経ち、利用する多くの方からトイレについてのご意見をいただくことが増えていました。それに伴い、トイレ改修に向けての話し合いを重ね、この秋から改修工事をスタートさせる事となりました。

9 月 13 日　第1回目となる改修工事を行いました。ごんべえさんに自前の重機をお借りして、タンクを埋める穴を掘る作業をしていただきました。合わせて、庭先にあった木材を整理して、薪などを置ける棚も作りました。この日はあいにくの雨でしたが、皆さんが率先して作業を進めてくださり、無事に改修工事をスタートさせることができました。

9 月 16 日　第2回目となる工事は、瓦を割って穴に敷き詰め、そこにセメントを流し込む作業をしました。瓦をパリンと割る感覚の心地よさを感じたり、セメントを練るコツも教えてもらいながら、楽しく作業をしていきました。掘り出した大量の土を移動させる作業には、また重機をお借りしてごんべえさんに活躍していただきました。

9 月 19 日　陶吉さんと業者の方にお願いして、穴の中にタンクを置き、土をかぶせて平らにする作業をしてもらいました。

9 月 30 日　ごんべえさん、ニシチャン、陶吉さんに、建物の土台となる部分の、基礎工事をしていただきました。

10 月 4 日　皆さんにご参加いただいての3回目の改修工事では、基礎となる部分に、瓦を細かく砕き敷き詰めて、練ったセメントを流し入れて平らにする作業をしました。セメントの量が多かったので今回はかくはん機を導入し、練っては流し込んでの繰り返しの作業となりました。セメントを隙間なく平らにならす作業も、何度も塗り直す作業。その繰り返しの作業で、初めてコテを使った方も最後には上手に使いこなし、見事にキレイな床に仕上がりました。

おかげ様でここまで順調に作業を進める事ができています。寄付活動にもご協力をいただき、感謝申し上げます。今後もチャリティーバザーなどの活動を進めていきたいと思いますので、これからもご支援ご協力を宜しくお願い致します。農繁期にも関わらず、貴重な時間をさいてご参加いただいた皆さん。本当にありがとうございました。

みんなの家　運営委員会。

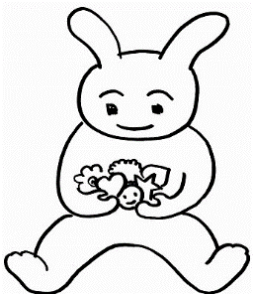
ま～ゆ会員にききました。

あなたの〝もったいない〟は何ですか？

「もったいない人」

№136 **にゃんこ先生**

自分が恵まれていることに気づけない人。そういう人は、自分が持っているものを見ないで、持っていないものばかり見ています。ほんとにもったいない、と思います。



いろいろな事柄 ― 家族、友人、健康、お金、仕事 社会等々 ― すべてに大満足、ってわけにはいかないかもしれないけれど、全部がダメってことはないはず。

私はほぼ毎日、コラボ食堂でシェフとフロア全部ひとりでやっています。あーしんどいって思ってしまいそうな時には、今日は腰が痛くなくてちゃんと床の雑巾がけもできてラッキーとか、手の中にある幸せを意識するようにしています。

手の中にあるものの価値に、それを失ってしまってから初めて気づくなんて、悔し過ぎますから。

№76 **ぶんちゃん**

家には、フイルムのカメラとデジカメのカメラをあわせると、6 台のカメラがありました。フイルムのカメラは、最近使っていませんでした。

でも、フイルムのニコンのカメラは、一眼レフでもう何年も前になりますが買った値段は、一台10万円は、こえていました。2 台は皮の立派なケースに入っていたので、もったいなくて処分しませんでした。

それがつい最近、「あきんどホール」でカメラの引き取りがあると広告が入りました。思い切って処分しようと 3 台もっていきました。30 人くらいは並んでいました。結局カメラはそこで処分してもらいレンズだけは使えるとの事で 4500 円になりました。来た人の半数以上は 0 円で持ち帰った人も何人かいました。私たち夫婦は金婚式を迎えるので、食事でもしようかと思っています。

№441 **そだっち**

『もったいない』といえば、僕の世代だと公共広告機構のテレビ CM に出てくる『もったいないオバケ』が思い出されます。

学校給食で嫌いなおかずを残すと周りのみんなが、「夜、もったいないオバケが出るぞ～」と、はやし立てていました。

そんなふうに言われるとほとんどの人は嫌々我慢して食べていましたが（僕もそのクチでした 笑）、食べ物を粗末にしない・食材の命をいただくということの大切さを学んだ気がします。

まんが日本昔ばなしの常田富士男さん、市原悦子さんのナレーションも子供心に刺さるし、現代でも良い教育となる名作アニメだと思います！

今はリサイクルとして、プラごみ、古新聞古雑誌等々が再利用可能な資源ごみとして活用されているので、もったいないオバケは先見の明がある名 CM だったと改めて思います。

№263 **あきちゃん**

●トイレ

お食事中に読んでいたらすみません。

トイレのもったいないです。

私は常日頃、〔大〕でも〔小〕でも、トイレの水は〔小〕でしか流した事がありません。うちのトイレは〔小〕でも全く問題なく綺麗に流してくれます。

トイレに「流す時は〔小〕を！」と大きく書いてあるし、流す取手にも〔小〕に大きな赤丸をしていますが、うちの家族はみんな見えないみたいで(笑)、少しのおしっこでも水がじゃーじゃー流れています。

唯一小 4 の長女が協力してくれていますが、そのたくさん流れている音を聞くたびに、あー水がもったいない！と思うのです。

●洗面所

子供達はみんな蛇口を全部開けて水をたくさん出して、歯磨き、洗顔、手洗いうがいなどします。その間、水は常に全開で出しっぱなし。

注意する時もあるし、あまりにも頻繁なので、毎回注意だと疲れてしまいます。

目をつぶることも必要なのかもしれませんが、毎日「もったいないなー」と思っています。

●電気

うちの家族は、スイッチを点けることは知ってるけれど、消すことを知らないみたいです(笑)点けたら点けっぱなし。

何度言ってもなかなか動かなくて、もったいない！とおもっているのは私だけなので、仕方なく消しに行きますが、これもまた忍耐が必要ですね。

生ごみは大切な資源

№71 **トットちゃん**

皆さん生ごみはどうしていますか。

市の焼却炉がピンチと聞いたのがだいぶ前のこと、焼却物には生ごみが多いそうだ。農家で育った私、生ごみを石油で燃すなんて「もったいない」と痛感。家庭菜園をしていると、もちろん花つくりも同じ、土が命の始まりだと知るのだ。自分の生ごみは何とか堆肥にしようと電気生ごみ処理機を買ったり、EMぼかし・米ぬかを使ったり、何年も時間とお金を費やしようやくたどり着いたのが、誰でも簡単にできる腐葉土と米ぬかを混ぜ、とこを作り、生ごみを発酵させ微生物を活発に働かせると立派な有機肥料なのだ。パックンで作るのもいいよ。段ボールの中は腐葉土、生ごみ、米ぬか、微生物の関係で 40 度から 60 度の高温だよ。これが自然界の不思議である。スイカの皮、モロコシの芯など量の多いものはコンポスターへ。この堆肥と畑の周りで刈った草、十草を畑にすく。ことで化学肥料、農薬なしでおいしい野菜が生まれる。土は命の始まり、どうか生ごみを循環させこの美しいわが里の農業を救おう。

市長さん上田にも早く堆肥センター頼みます。早く作らないのはもったいない。

蕎麦処 いちや №312 牧野隆彦

●お食事代の 5%をま～ゆでお使いください

●環境やお財布にもローインパクトな蕎麦屋を目指しています平日は予約制となっています

※前日までにご予約頂いたお客様には一品サービスします

上田市住吉1160 TEL25-1841

携帯080-5140-6689

会報の広告欄を活用しましょう

1 年間 1200 ま～ゆで、

あなたのお店の広告が掲載されます。

会員にとって「どうせ買うなら仲間の店から」の連帯感が強まり、ま～ゆ交換が一層活発になります。

もったいないなあ…　　№265 宙 蟲

東信地方のひとつの地点に足掛け 17 年、仕事滞在中である。

立ち上げの一時期を！の言葉も何処へやら。数年前オーナーは個人から行政に代わった。民間の底辺しか知らぬため、慣れぬ行政の仕組みは苦痛だった。が、蟲の資料や何万の標本たちに罪は無し。ひたすら守るべき存在だ。長居も角度によっては修行でもあり、時に蟲たちに守られて来たようにも思う。

人の揺れる価値観には無関係に、蟲らは存在し続けてきたし存在する権利もある。蟲の墓守りを自認していた時期もあった。

今年もまた中秋の名月の時期になった。夜空を見上げながら、月に還りたいお姫様よろしく、未だに何処でもない何処かからの周波をキャッチするのを好む。随分長い間、どんなことも考えよう一つだからと自分を諭しながら、苦境に陥るとじきに「あのせいこのせい人のせい」になる貧しさが、月の鏡に映し出されるよう。なんともはや。

月は月のまま、風は風のまま、花は花のまま、蟲は蟲のままが美しい。

自ずと然りに存在する者たちは、決して手を貸さないが、それ以上の慈悲溢れる環境と空間をもたらしてくれた。

では、ヒトは 自然か？ 自分は自然か？ 言葉は自然か？

もたもたしている間に、深海魚もシロクマも鳥も魚もいなくなる。

誰のせい？ 自然ではない生き物、言い訳上手な生き物、言葉を操る生き物のせいだよ。満月はやさしいね。天のものにも魔のものにも等しく降り注ぐやわらかな光のシャワー。

もったいない、もったいない、せっかく自然は豊かだったのに。

もったいない、もったいない、もったいない。

もったいない、もったいない、だからもう YES ！と言おう。

人間がいなくなれば地球は美しくなる YES

悲鳴は地殻から宇宙の果てまで振動する。

守るべきは希望 希望はこども 満面の姿は自然。

こども(自然)が飢えていいはずがない。

野に出でよ 野に遊べ 野に汗しよう。

そして世界中のこどもを 解き放してやりたい。

貧しい私に何ができるだろうかと つらつら考えながら

画紙に向かう。

もったいない　　№55 ミーすけ

もったいないといったらヨーグルトやカップラーメンなどの容器です。結構形がよくしっかりしています。ポンポンとはなかなか捨てられません。

40 年以上前の昔、都々平が外交で和田や塩田、北佐久、南佐久方面を回っていました。ところが角膜ヘルペスに罹(かか)り、商売に出られなくなりました。そこで私が外回りをすることになりました。商品を売ったり、集金が仕事です。年末はとにかくよく売れました。私一人では売り上げ伝票をつけたり、お金をもらったり、手に負えず、軽井沢から北相木村方面に行くときは都々平と二人で行きました。

軽井沢で車の中で食べたお昼の自動販売機のカップのうどん、おいしかったナ。

容器がしっかりしていて捨てられなくて家に持ち帰りました。その容器がまだ 3 つあり、重宝して使っています。

プラスチックですが、とにかく使いやすい。

リユースされる容器が増えればいいなといつも思っています。

125 号はのテーマは

〝カレー〟 です。今や国民食ともいえる「カレー」。この誰にも愛される料理にあなたの思いを一言！

「お好みのカレー(具材)はこれ」「甘口・辛口どっち？」「カレー店はここに限る」「そもそもカレーとは」「レトルトカレーだって捨てたもんじゃない」等々カレーへの思い入れをたっぷり書いてみましょう。

400 字程度を 11 月 20 日まで。

もったいない

№393 **ありす**

週末、というか大体日曜日になってしまうのだけど、佐久市望月町布施村式部の家に帰ります。帰りつくのが夜 8 時過ぎ、時には 10 時過ぎ。晴れている夜は、縁側にテーブルと椅子をおいて、お月見。お供は、日本酒か、ワイン。布施川の流れに沿った山あいの村。ぽつぽつと人家。虫の音、近くに獣の息遣い、山の見守り。時計が深夜 1 時を回り、寝なければ…明日は朝 7 時 45 分のバスに乗る。でもでも、寝るのはもったいない。

佐久市は、水道の水源を八ヶ岳山麓の湧水で賄っている。先日水源の一つ布施川の上流を水道企業団の人の案内で訪ねた。ここは、水脈まで 150 メートル掘ったという。農業用水と飲み水に使われている(7:3 の割合だったかな)のだが、地上に生まれたばかりの水がざあざあと管から噴き出してくる。コップにすくい取って一口。甘露！ 大鹿村のリニア工事は水脈を断ち切っていないか。布施水源も、開発によって断ち切られないか。干ばつによって枯れないか。 この水を持ち帰って、「八ヶ岳の水コーヒー」を CAFE で出したいなあ。あ～あ、もったいない。

№112 **めばえ**

小さな山村で、ほとんど自給自足の質素な暮らしを過ごした私。親から1粒の米も粗末にしないよう、もったいない精神を体に染み込ませ育ちました。今でも我が家で取れた野菜をどう生かして使い切るかと…。

「もったいない」ってものを大事に生かす事と思います。

だいぶそれてしまかもしれませんが…。

上田医療センターへ同じ病気で夫が2度入院しました。10年ほど前最初に入院した時は、麻酔科もなく手術できず松本信大病院へ転院。昨年入院した時は麻酔科もあり上田医療センターで手術を受け退院する事が出来ました。体力的にも精神的にも経済的にも本当に助かりました。感謝、感謝。

地域医療の大切さを身にしみて感じました。1住民として地域医療を大事にと思っています。粗末にしてはもったいない。

№436 **けんちゃん**

人生は紆余曲折があり、皆、難行苦行の中、耐え忍んで生きています。

そんな長い人生の中、今の現実から逃避したくなる事も、もちろんあると思います。

しかし、天から授かった命を、天命を全うする事なく、自ら幕を引いてしまうのは、あまりにも もったいない。

生まれながら難病を抱え、短い期間しか生きられない子供達からしたら、考えられない所業です。

もちろん、自死に至るまでには、他人に話せないような苦悩やジレンマがあったと思います。

しかし、本人ではなく、家族や友人が、一生後悔する事になります。

まあ、冷静な判断ができるような精神状態ではなかったのでしょうが…

この文章がイマイチまとまらないのは、

私自身、「何を思えばいいのか。」が、まとまっていないからなのです。

「松ヤニが　もったいない？」

№437 **あやちゃん**

先日、家の近所の浦野をウォーキングしていた時、「馬脊(ませ)神社　東之宮」という所を見つけた。けんちゃんは、子供の頃よく遊んだ場所だと言うが、私は初めて訪れた。厳かな雰囲気と清々しい空気が気持ちの良い神社。境内を散策していると「戦争を伝える松」と書かれた立て看板があった。

太平洋戦争末期、戦闘機の燃料が不足していた日本は、松ヤニを燃料にする計画を進め、全国各地の松から大量の松ヤニを採取した。しかし質が悪く、結局使用されないまま終戦をむかえた。

松から松ヤニを採取する際に、幹に矢羽根のような傷をつける。

その傷が、70 年以上経った今でも、くっきりと見てとれる。その痛々しい姿を見て、言い知れぬ感情が込み上げてきた。

使用されなかった松ヤニは、いったいどうなったのだろうか？

このような松が、上田市内には他にも 5 カ所ある。「戦争遺跡」として保存し、後世に伝えていく地域活動を初めて手掛けたのは、浦野なのだという。

この松のように、地元の戦争史や郷土史など、知られていない事があまりにも多くて「もったいない！」そんな事を感じました。

捨てるのがもったいなくて…　№1 **ケセラ**

義母が亡くなって、かれこれ 3 年。着物道楽だった人らしく、和ダンス3竿には着物や帯などがいっぱい詰まっていた。未使用のものもたくさん残っている。

ところが義理の姉、妹、おばさんたちは、いらないと言う。しかし、これだけ良いものを処分するのはもったいない。何とか有効に使えないかと思案した。

そうだ！ま～ゆの皆さんに聞いてみようと思いついた。早速メールで募ったら、ありがたいことに何人かが着物や帯をもらってくださった。手仕事をしている友人にも使ってもらうようにお願いして回った。こうして随分活用してもらえた。それでも、アンジンさんの実家には着物類がまだまだ残っている。他にも行き先を探しているモノが山ほどある。(随分思い切って処分したけど…)

この件で、祖母のことを思い出した。和裁にたけていた祖母は、着物をほどいて自分で洗い張りをしたり縫い直したりと、小まめに手入れをしていた。その上、着物として使えなくなると、布団の表地や座布団にしたり、腰ひもにしたりと、最後まで布を使い切っていた。今、その技は私に伝えられていない。何ともったいない事。ただ、その精神だけは私にも伝わっている。だから私もモノが捨てられない。いつかは使うかもと思い半世紀も前のものまで残している。しかし、これからの時間を考えると、モノを増やさない暮らしをしなければ、後に残された人が大変。反面、何世紀にもわたって祖母から母へ娘へと伝えられるような丁寧な暮らしの在り方も大事にしたいなと、複雑な気持ちを抱えています。

もったいない教に溺れる　№50 **都々平**

「何を書いたらいいんだろう？」私には書くことが山ほどあって絞れないのであります。

かつて、「都々平・ミーすけのエコ^{2}家族」を連載して、好評(あるいは悪評)をはくしましたが、それから世の中はどのように進化しているでしょうか？少なくともこの国の環境政策は「グレタさんに叱られる」状況であることは間違いありません。

だから一人が頑張っても「所詮蚤の涙にもならない」と思いながらも、もったいないを止めるわけにはいきません。

そんな思いのたけ(都々平の遺言)を連載しようかな？と考えました。読んでくれますか？

ま～ゆな人

№290 neko さん

子供のころ

neko さんは市内（木町）の甲田はきもの店の甲田秀彰さんと従妹です。neko さんのお父さんは結婚して新田に甲田はきもの店新田支店を構えました。

初めは履物だけでしたが、北小学校が近かったので、学用品を扱うと、それが当たってとてもよく売れました。お父さんは本店の経理をしていたので、支店はお母さんが切り盛りしていました。

良く働くお母さんで、店に人が来ればお茶を出し、お客さんも気軽に集まってきてくれ、店はご近所の憩いの場だったそうです。全自動洗濯機もない時代、多忙な中、朝やった洗濯を夜干すなんてこともたびたびだったそうです。そのころ秀彰さんは大学生で、帰省すると街へ連れて行ってくれて好きなものを買ってくれたり、一回り年の離れた neko さんはとてもかわいがってもらったそうです。

また、お父さんには「親孝行をしなさい、そして自分の子供にも親孝行をしなさいと言える親になりなさい」といわれていたそうです。年を取るごとにその言葉の意味がわかるようになったそうです。

ま～ゆに参加

ま～ゆに入ったきっかけは、「老後、お金がなくても地域通貨で助け合っていく」という言葉にひかれたと話されました。ま～ゆに参加してみると、ヒデさんはじめ知っている方が何人もいて嬉しかったとか。

neko さんは学校を出てからずっと勤めを続けています。何回か仕事は替わりましたが、辞めると不思議と次の仕事が来てくれて、その度に今までの経験が活かせる仕事に就けて良かった。仕事を選ぶのでなく仕事に選んでもらい今日まで続けることができたと、話されました。

3人の子育ては、義理のお母さんが見てくれました。お義母さんが年をとって介護をするようになり、大きなお風呂に入りたいというので、普通の温泉は無理なので、身体の不自由な人でも入れる温泉を調べて行きました。車椅子がコンパクトになったことも幸いでした。その時は2人のお姉さんがいつも協力してくれたそうです。また、ご主人のお姉さんもいつも「ありがとう」と感謝の言葉を伝えてくれて、嬉しかったそうです。

出会った人

7年前のこと。友人3人で会津に旅行した時のことです。新潟県魚沼の山の中の道でひとりの老人があるいているところにすれ違いました。「こんな山道をどうして？」通り過ぎながら声をかけようか、おせっかいはよそうか気になりましたが、U ターンしておじいさんのところへ戻りました。するとおじいさんが「つい居眠りして1駅（次の駅は廃駅となり実質2駅）を乗り越していまい、次の只見線まで時間がありすぎるので歩いて帰るところだった」と。すでに1時間歩きクタクタの様子「近くの駅まで送りましょう」と乗せたのですが、結局家まで送り届けました。

お礼に自分史「私の歩いた貧しい道」という本をいただきました。3人なので3冊と言われましたが、読み回ししますからと1冊いただいてきました。実はたいして期待していなかったのです。

ところが家に帰って読んでみると実に面白い、おじいさんが苦労して勉強したこと、出稼ぎに行き、会計経理の資格を取ったこと、村の歴史、全集落史や写真集を4年の歳月と数百万を投じて作成し寄贈したことなど。

その後、リンゴを送ったり、交流が始まりました。本が面白かったので、それぞれが自分の手元に置いておきたくて後にもう2冊いただきました。

おじいさんは今 96 歳です。苦労して働いてきたが守られていたと感謝し毎月 1 日と 15 日は近所の神社へお詣りに行き、お賽銭はいつも 1,000 円あげるそうです。これは「天国への貯金」とのこと。

neko さんはこの出会いからおじいさんに見習って真似事をさせてもらっているそうです。

この経験からでしょうか、ドキュメンタリー映画にも気持ちよく寄付してくださいました。

ま～ゆのこれからについて

ま～ゆの字が象徴するように、ほんわかとした会で誰でも寄ってこられるようになればいいな。

10 日のま～ゆ市や廿日市にも興味があるが仕事があるので今は難しいなと話されました。

ミーすけ記

連 載　コロナ以降の世界について その ③

No.421 トムさ

締め括りとして「新型コロナウィルス」が世界の在り方を変える夢について書きます。

現代社会が資本主義の限界を見せつつも展望の持てない戦争前夜の様な様相を見せ息苦しさを感じていたのは私だけでしょうか？

しかし、今回のコロナ騒動は新しい世界への幕開けのような光明をもたらしました。

国家や経済に管理される戦争前夜の様な閉塞感は、アメリカの新自由主義経済に端を発します。格差を増長し日本もアメリカを追随しています。非正規雇用が 37%と経済格差が広がり、医療・福祉の後退は生活の質を低下させ続け、一次産業の農林水産業は衰退の一途を辿り食糧自給率は下降し続け 38%と独立国と言えない低さです。

百姓となり学んだ事は、EU 諸国が食糧自給率を守る為農業者を補助金で守っている事、健康を守る為予防原則に立ち農薬使用を制限し遺伝子組換え農作物禁止に舵を切っています。オーガニック（有機農産物）への移行はアメリカでも推進され日本の遅れが顕著です。

羅針盤は「命を守り・育む」事を指しています。日本政府は、平和と人権の世界平和を掲げる憲法を蹂躙（じゅうりん）し続けています。

一方、軍事費と大企業の内部留保（本来労働者の賃金に反映され、投資されるべき収益）が拡大し続けています。更に、管理社会が恒常化し閉塞感に輪を掛けています。戦後政治は一貫して憲法改定を前提とし日本国憲法を蹂躙してきました。

教育界に身を置いていた私は日教組の解体や教育内容への干渉を実感してきました。今回のコロナ対応で、教育に対する権限の無い首相が休校を要請し国公立を問わず殆どの学校が応じた事です。憲法や法律が機能失い教育の独立が損なわれた事実です。

新型コロナウィルスは「命に立て」と言う人類に対する警告です。

「欲望の資本主義」は資本主義の限界を指摘しています。人類の叡智が分析しつつも展望を示せなかった資本主義の暴走とグローバル経済の欠陥を突く形で明確にしました。

食の安全と食糧安保についても、流通が途絶える事で個人・自治体・国の主体性と独立を求めています。極めつけは、私達の命が自由にならない現実を如実に突きつけた事です。

最近ミヒャエル・エンデの「モモ」が「ま～ゆ」設立の動機になったと知りました。

上田に移住し5年目。有機農に切り替えて4年目。障碍（しょうがい）児教育から百姓になり悠々自適の余生を送る筈が生涯現役へと変わりました。変わらない事は「命を守り・育む」事です。

新型コロナウィルスは、経済中心の世界の限界を知り「命」の為に生きる事を求めています。また蚕都くらぶ・ま～ゆを否応もなく表舞台へと引き出す役割を果たしています。

これからも力を合わせ、共生社会を築いていきたいと願っています。

コロボックル　（西山）

No.381 殿下　No.388 キョン

●オーガニック・フェアトレードの自然食品を25 年にわたって自宅で扱っています

●代金の10%分　ま～ゆが使えます

上田市古里 699-6　P 2台ほど可能

Tel　0268-27-3903

蕎麦屋　つゞき　No.412 近藤 薫

●お食事代のうち 100 円をま～ゆでお使いください

●浅間山麓 700mの自家製・手打ちそばです

●珍しい変わりそばや、箱寿司・蒸し寿司などもあります

●営業は4～12 月の金土日、11:30～14:00 です

◇所;湯の丸ICから山側へ 800m祢津JAの近くです

東御市祢津1308　TEL0268-63-6192

初めての海外旅行 ⑯

No.130 **建築よろず屋のヒデさん**

1987 年 2 月 22 日(日)は、パリで見たかった建築のひとつポンピドゥー・センターへ行った。名称は、近代芸術の愛好家であったポンピドゥー前大統領の名前から付けられ、ピカソ、マティス、シャガール、ミロ、ダリ、ウォーホルなどの作品をはじめとする 10 万点以上を所蔵し、ニューヨーク近代美術館(MoMA)に次ぐ規模を誇る。でも私は、近代美術が観たくてポンピドゥー・センターへ行った訳ではない。

ポンピドゥー・センターは、国際コンペで 1971 年にレンツォ・ピアノ(イタリア)、リチャード・ロジャース(イギリス)、ジャンフランコ・フランキーニ(イタリア)の共同プロジェクトが選ばれ、1977 年に完成した。

その前衛的なデザインは、「パリの美観を損なう前衛芸術」、「配管設備のノートルダム」、「芸術の倉庫」、「文化のがらくた置き場」などと批判された。これに対し、レンツォ・ピアノは「いかめしい文化施設のイメージを破壊したかった。これは芸術と人間のこの上なく自由な関係の夢であり、同時にまた、街の息吹が感じられる場である」と語り、批判を退けた。

パリの町並みを壊すような建築が何故建てられたのか、レンツォ・ピアノの主張が正しいのか、自分の目で確かめたかった。当時の私の印象は、パリの町並みと調和しているとは口が裂けても言えないが、壊していると言うほどでもないと感じた。それは色味の少ない町並みに色を付けた新鮮さだったのかも知れない。

この原稿を書くために、33 年前のスライドを探し出し、改めて見てみると、やはりパリ市民の反応の方が正しかったようだ。右の写真が表の通りから写したもので、手前から順番に白いダクトは排気塔、青いダクトは空調、緑のダクトは水道というようにカラーコードで示されている。左の写真は反対側の広場から写したもので、赤いダクトのようなエスカレーターが象徴的で、右下の日の丸はちょうど開催されていた「ジャポニスム展」のもの。

現在、入場者数 300 万人を超えるポンピドゥー・センターは、世界の文化をリードしてきたパリだからこそアバンギャルド(前衛芸術)として受け入れられたということかも知れない。　(つづく)

西洋占星術・ヒーリング

No.267 くらげ(水沢)

● タロット・自然療法・不思議いろいろ
●ま～ゆ会員は2割引。
さらに半額までま～ゆ払い可能です。
●障害や不具合をお持ちの方の介護や
お手伝いも、ま～ゆで承ります(介護福祉士)
上田市中央東 1－19
連絡先:090-2755-1383

街の気軽なマルチメディアショップ
㈲ 伸和印刷　No.57 中澤
●ご利用金額の 10%まで「ま～ゆ」をお使いください
●今、流行りの自分史を作ってみませんか?
●会議資料作りに便利な、製本機能付き
高速デジタルコピー機導入しました
上田市国分1-7-12
TEL22-7710 Fax22-7718

エンディングチーム「いのちの選択」

No.130 ヒデさん

9月25日にエンディングチームの第2回目の会議がありました。メンバーは辛口さん、都々平さん、ミーすけさん、けんちゃん、あやちゃん、ごんべえさん、トットちゃん、矢島さん、ヒデさんに加え、ごんべえさんの友達の市村さん、城下地域包括センターの紹介で長野大学社会福祉学部の大久保さんと中島さんが見学で参加されました。

今回は都々平さんが用意してくれた「いのちの選択」というリーフレットに、話し合いながら記入してみました。病名・病状や余命の告知については、選択肢に簡単にチェックを入れることができましたが、終末期医療については、選択肢に当てはまるものがなく、新たに「苦痛を和らげる措置」という項目が必要という意見が出ました。また、終末期で望む生命維持処置では、人工呼吸器を取り付けたら外すことができなくなるとか、胃ろうをしても話はできるのか？ 「尊厳死宣言書」って何？ など次から次へと疑問が出てきて僅か 5 項目しかない「いのちの選択」に簡単にチェックが入れられないことがよく分かりました。

そんなとき、城下地域包括センターの矢島さんのアドバイスは有難く、みんなで頭を抱え込んで前に進まない状態に陥ることはありませんでした。その矢島さんからの情報で、上田市のホームページからエンディングノートをダウンロードできることが分かりました。次回からはこれに記入しながら進めていきます。一人で記入していると恐らく判断が難しい箇所に突き当たると思いますが、エンディングチームで話し合いながら進めればゴールに辿り着けそうです。

ま～ゆミュージアム

8月某日の
私の絵手紙
しんこ

ま～ゆ文芸堂

俳句

手のシミをながめる我に秋の雲
No.1 ケ・サラ

澄みし空コスモス揺れる野の端に
No.1 ケ・サラ

山裾にススキ列なし穂を垂れて
No.1 ケ・サラ

ふる里の伊那谷恋し秋の暮
No.158 うえのさん

夕闇に野鳩の声やくぐもれり
No.158 うえのさん

八月の句

てっぺんから汗が噴き出す猛暑かな
No.130 ヒデさん

九月の句

コロナ禍を自在に飛び交う 蜻蛉（とんぼ）かな
No.130 ヒデさん

背伸びして雲まねきをり花芒（すすき）
No.309 しんこ

秋茜風と呼吸を合わせをり
No.309 しんこ

はじけ咲く最後の恋や曼珠沙華
No.309 しんこ

川柳

コロナ禍でどこにも行けぬ憂さ溜まる
No.1 ケ・サラ

新施策繰り出す政府中身無し
No.1 ケ・サラ

落語

八つぁん 先生コンチワ
先生　おや、八つぁん、景気はどうだい
八　コロナでさっぱりだ。ところでコロナといやあ、一つ聞きてエんだが、免疫ってなんです?
先生　ほう、突然、珍しいことを聞くねえ
八　いやね、高校に行っている娘が免疫についてという宿題が出たそうで、トウチャン免疫って何って聞いてきた。
先生　ほう、それで?
八　仕方がねえから、免疫というのは、ラーメンを食わせる駅のことで、ラーメンを食わせる駅を略してメンエキという。オメエそんなことも知らねえのか、と言った
先生　ふむふむ
八　そしたら、オレの顔をみて、この人の遺伝子を半分持っているかと思うと嫌になっちゃう、と言うンで
先生　ハハハ・・・
八　笑い事じゃありませんぜ、親のメンツが丸潰れだ
先生　免疫とは全ての生物が体内に持っていて、病原菌などの外敵を防ぐための防御手段のことだ
八　すべての生物というと、豚や鶏なども免疫を持っているンで?
先生　そうだ、豚やニワトリなどにもウイルスは感染するので彼らはそれに対する免疫を持っている
八　そういえばいつかニワトリを感染から防ぐために大量に殺処分するのをテレビでみた
先生　トリインフルエンザのウイルスはもともと野生の鴨にいたウイルスだが鴨に病気を起こすことは稀で鴨と共存していた。それが人によって集団で飼われた鶏に感染し病原性を獲得した
八　なるほど、じゃあ同じウイルスでも病気を起こす動物と起こさない動物があるンだな
先生　例えば、コロナウイルスは元々熱帯の森に住むコウモリの体内に住んでいて宿主のコウモリと共存していたのだが、人間が熱帯雨林を伐採して他の野生動物と接触したためにそれを経由して人間に感染したものと言われている。
八　どうしてそうなったのだろう?
先生　それは何億年という進化の過程で生物の間で出来上がった関係だ『進化ねエ』
八　それどころか、ウイルスは大腸菌や赤痢菌のような、人に病気を起こす細菌にも感染する。特に細菌に感染するウイルスをファージというその時、細菌はそのファージに対して免疫を持っているのかネ
先生　その通りだ、ファージはウイルスに侵入されると、それを感知してクリスパーという武器を使ってウイルスの遺伝子を切断してウイルスを無力化する、これが細菌のウイルスに対する免疫だ
八　細菌がそんなに高等な能力を持っているなんて!
先生　この細菌の持つファージへの免疫現象の研究によって、現代生物学は大きな成果を得た
八　ホウ、ウイルスに対する細菌の免疫の研究でネ
先生　それはクリスパー・キャスナインという技術で、生物の遺伝子を切断したり、繋いだりできる方法だ
八　その技術で例えばどんなことができるンです?
先生　人の遺伝病を起こす遺伝子の部分を切り取ってそこに正常な遺伝子を挿入することによってその病気を治すことができる、これを遺伝子編集という
八　夢の技術だ
先生　ところが、この技術を人間の生殖細胞に用いると、大変なことになる。使いようによって思い通りの人間を作れる危険な技術でもある、
八　そりゃ大変だ
先生　というわけで、この技術は諸刃の剣で人間に倫理的な問題を突きつけることになる

動物たちの声になりたい その35

No.136 にゃんこ先生

12歳のトロフィーハンター

トロフィーハンティングとは、趣味で野生動物を狩猟すること。戦利品(毛皮や角や剥製)をトロフィーと云います。自分が殺したシマウマやキリンのまえで曇りのない笑顔で写真にうつるアメリカ人の12歳の少女…。「完璧なハンティングをするのが夢」と語ったそうです。完璧なハンティング？？？

牛乳は子牛のもの。昔の日本人は知っていた

以下、うろ覚え、場所や年代が特定できなくてすみません。(検索しても、わかりませんでした。)

開国前後、(たぶん)横須賀あたりで、日本に駐在していた(たぶん)アメリカのお偉いさんが「牛乳を飲みたい」と所望されたそうな。ところが、日本の(たぶん)役人は、「牛乳は子牛のものですから、差し上げるわけにはいきませぬ」、と断ったそうです。

やたらに日本人を持ちあげるのもイヤですが、このエピソードは実にいいと思うのです。正義と道理を重んじています。 こういう人が日本のトップで、「沖縄は沖縄びとのものだから、出て行くべし」って米軍基地を追い出してくれたらよかったのに。

「ヴィーガンが嫌われる理由」を、ヴェジタリアンのブログで読んだ

へ～！ヴィーガンって嫌われてたの！？ 知らなかった。私の発言がまともに取り合ってもらえなくて、スルーされるのはそのせい？

嫌われる理由の一番は、「自分の考えを押し付ける」らしいです。うーん、押し付け？

私は押し付けているつもりはありません。気づいてほしくて、強く主張しているだけです。機会をとらえて何度でも同じことを。それを押し付けと受け取るのは、聞きたくないからであり、なぜ聞きたくないかというと、良心の呵責を感じて居心地がわるくなるのでは？

私にも苦手とするヴィーガンがいます

フェイスブック「ヴィーガンへの道」に、工場型畜産の実態の衝撃的映像(たとえば、生きながら茹でられている鶏や生き埋めにされる豚、シュレッダーにかけられる生まれたばかりの雄のひよこ、など)を頻繁に投稿する人がいます。そして決まって「まだこういう事実を知らずに、平気でお肉や卵を食べ牛乳を飲んでいるお友達や家族に見せてあげましょう」と書いてあります。

気持ちはわかります。でもね、「この事実を知れば、誰だって肉食をやめたくなるはず」、だなんてとんでもない幻想です。(投稿した方だってまさかそう信じてはいないと思うのですが。ヨーロッパ在住の方なので、過剰な期待と幻想があるのかな？)

私が言いたいこと。「ヴィーガンへの道」を見ている人の多くが、動物への差別が嫌で肉食を止めた人です。当然、畜産の実態をよく知っているはずです。そういう私たちがどうしてまた更に心をえぐられる残酷な映像を見なければならないのでしょう？

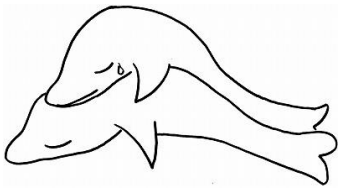
そうは言っても私は必ず見ます。同じ人間のする行為を見ておかなければ申し訳ないという妙な義務感にとらわれてしまって、どんなにむごくとも一度はちゃんと見ます。(たぶん他の人たちも見ているはず。)しかし、非ヴィーガンにそれを見せることは簡単ではありません。欧米でよく行われているように、街角でそれらの映像を流し続けるなどの活動をしたいのはやまやまですが。

愚かしい抗議行動

私たちヴィーガンの目標はただひとつ、動物たちの幸せです、身勝手な人間の欲望のために、たった一つの命を奪われることなく、ごく普通に天寿を全うして欲しいだけです。その実現のためには、非ヴィーガンの反感を買う行為は逆効果です。

たとえば、海外でのことですが、営業中のステーキハウスの中にプラカードなどを手に入り、食事中の客たちの前で抗議行動をしていました。居合わせた客たちは間違いなく、ヴィーガニズムに対して終生忘れられないくらいの最悪な印象をもったでしょうし、それを家族や友人たちにも話すでしょう。愚かなことに、「動物を殺して食べる加害者」を「運のわるい被害者」にしてしまったのです。それは絶対にするべきではありませんでしたね。

今現在苦しんでいる無数の動物たちを思えば焦る気持はわかりますが、我慢！目の前で肉を食べている人を直に糾弾したら、その時はすっきり気分がいいかもしれませんが、こういう行為はやらないほうがはるかにましです。



イルカも自殺する

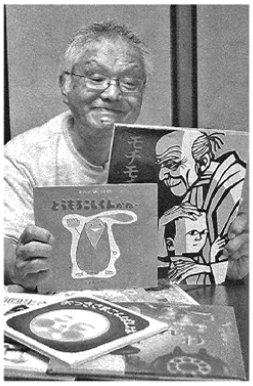
国内の水族館のイルカが自殺を試みる映像を見ました。水槽のへりをよいしょっと乗り越えたのです。スタッフが大勢駆け付けていましたから、かわいそうに、未遂に終わったことでしょう。こういう事例は海外でもいくつもあるそうです。

クリスマス 家で過ごせない子にプレゼント

「本のサンタ」を東信に

上田の有志 協力呼び掛け

上田市民有志らが、自宅でクリスマスを過ごせない子どもに本を贈る「サンタ・プロジェクト」を東信地方で初めて立ち上げた。賛同者を募り、児童養護施設「森の家 はらとうげ」（上田市御所）の園児から高校生まで約20人にプレゼントする。同市書店協同組合と協力し、メッセージカードを添えて賛同者が本を購入できる仕組みにする計画だ。



サンタ・プロジェクト・うえだ実行委員長の清水さん。12月に向けて準備を進める

同市古里の元県職員、清水重信さん(63)が発起人。同プロジェクト・うえだ実行委員長を務める。県シニア大学に通う清水さんは昨年、松本市でサンタ・プロジェクトに関わる松本大生と交流。本を贈る活動を初めて知り「上田でも広めたい」と、知人友人に協力を呼び掛けた。

今年8月に清水さんは、読み聞かせなど本に関わる団体や学校関係者らと実行委を設立。地元の上田千曲高校の生徒も告知用のポスターデザインに携わることになった。

計画では12月上旬、賛同者が市書店協の加盟店で子どもの性別や年齢、好きなことを確認してプレゼント用の本を買う。1冊につき千円前後の予算で統一する。各書店に本を保管してもらい、実行委がクリスマス前に森の家に届ける。清水さんは「ご縁を大切にして、贈る人と子どもたちをつなげたい」としている。

サンタ・プロジェクトは2009年、元大学教授の大沢秀夫さん(72)が新潟県新発田市で始めた。上田市での取り組みは県内で長野市、松本市、諏訪市に続いて4番目。全国では13番目という。

サンタ・プロジェクト・うえだ の実施状況（中間報告）実行委員会方式で実施

実行委員の募集を昨年から取り組み、実行委員としてお願いした いっしゃんこと石合さんの強力なサポートで様々な方を紹介いただいた。公民館長さん・次長さんの推薦で「本とコーヒーの会」、情報ライブラリー館長さんから推薦の「表現を楽しむ会」、本のことや地域づくりに関わっておられる山浦先生関係の「図書館倶楽部」、地域福祉に関わっておられる上田千曲高校の先生・生徒さん達、侍学園の先生・学生、ま～ゆのヒデさんなど強力なメンバーが同志として賛同いただいた。

集まったメンバーは高校生からシニアに至る幅広い年齢層となった。

8月3日　第1回実行委員会の事前準備として、サンタ・プロジェクト創始者の大澤秀夫先生のお話を伺いに、松本へ出かけ、先生のこの運動にかける熱い想いをお聞きすることができた。

8月30日 キックオフミーティングとして第1回実行委員会を開催することとなっていて、それに向けて準備を進めていたのだが、コロナの警戒レベルアップの状況になり、急遽中止することとし、代わりに書面でのお知らせで意見を募ることにした。

9月19日 協力書店である上田市書店協同組合の方々と、開催期間や具体的な実施方法について打ち合わせをした。

9月21日 第2回実行委員会を開催。ここではPRの要となるポスター・チラシの原案をコンテスト形式で選定。原案作成には千曲高校の生徒さん36名から応募いただいた。応募作品はどれも力作で甲乙つけがたかったが、選定に当たっては、ヒデさん提案のシール投票方式で投票し、最優秀賞1点、優秀賞4点を選定した。また、絵本等の推薦リストの作成をすることとした。

最優秀賞・優秀賞に選ばれた作品はポスター・チラシとして活用したり、メッセージカードのデザイン等にも活用することとしている。

9月23日 絵本等の贈り先である「もりの家・はらとうげ」を訪問し、施設の概要や入所されている子どもたちの様子をうかがうことができた。

＜今後の予定＞

ポスター・チラシの作成・配布(11月上旬～)

絵本等の購入促進(12月1日～12月20日まで)

絵本等のプレゼント(12月21日から23日までの間)

＜問合せ先＞　実行委員長清水重信
携帯090－2748－0442

＜皆さんへのお願い＞

この活動に興味を持たれ、何か支援・協力をしたいとお考えになられたら、次のことをご検討ください。

❶ 実行委員に加わる　❷ 絵本等を協力書店で購入する　❸ 活動・運営費の支援

19 周年
ミニま～ゆまつりとま～ゆ総会

12 月 6 日(日)
午後 1 時 30 分
会場　市民プラザ・ゆう

（11 月が恒例ですが今年は12 月です）

新型コロナウィルスの影響で、飲食を伴った集会はできないため、ま～ゆまつりは縮小します。
※ 詳細は後日案内を郵送します。

11 月のま～ゆ市

10 日開催 夜 7 時からです
会場は **中央公民館**

会費未納の会員さんへ

来月から新年度に入ります。今年度の会費を納めてない方は、早急に年会費 1500 円を納めてください。
(不明の場合は「かっとまん」に問合せを)
(河野)0268-36-4722
kohno@seagreen.ocn.ne.jp

レクリエーションチーム企画
第 10 回 旧北国街道まち歩き

ヒデさんと篠ノ井駅から川中島駅まで約　5 ㎞の旧北国街道を歩きます。
簡単な資料は用意しますが、道順、歴史など皆さんと意見交換しながら歩きましょう。

集合　10 月 29 日(木)9:40 篠ノ井駅前集合　小雨決行
小諸発普通　上田発 9:00 篠ノ井着 9:30 が便利です。
解散　川中島駅　15:30 頃を目指します。
小諸行普通　川中島発 15:19 上田着 15:54 着　あるいは
軽井沢行普通　川中島発 15:50 上田着 16:26 で帰りたいと思います。
持ち物:お弁当　飲み物　雨具など必要と思われるもの
参加費:300 円(保険代として 100 円を含む)
申　込:10 月 26 日(月)保険の関係です
ちゃーこ(河野)m-kohno0620@key.ocn.ne.jp
電話 36-4722(留守電になっています)
氏名(本名で)、電話番号、年齢を連絡下さい。
緊急連絡:当日朝は ちゃーこ 090-2454-3080

雑感

新型コロナウィルスの感染が収まるのはいつでしょう？全世界がそうであるように、ま～ゆ活動にも影響があって、夏まつり生ビール大会は中止せざるを得ませんでした。

でも“もうひとつの明日へ„お披露目上映会は 11 月 8 日(日)に開きます。入場制限を強いられるため、観られない方があるかもしれません。次の機会に期待しましょう。

観られた方はこの映画の感想を次号に投稿してください。当日アンケートに答えた方も時間を経てみれば書き残したことがあるかもしれません。ぜひお願いします。

尚、新たに原稿校正に特化した編集委員を募ったところ、数人が応えてくださいました。ありがとうございます。　　都々平

会報に携わった人

- 編集長 前田光俊
- 記事　安井啓子・小林綾子・前田美枝子・中島邦夫・竹内秀夫
- イラスト　竹内紀子(カット)　斉藤唯結(ゆゆい)(表紙)
- 似顔・写真　前田光俊・竹内秀夫・小林綾子　小林綾子
- 校正　前田光俊・竹内紀子・前田美枝子・曽田充・小池遼太

代 表　　安 井 啓 子
ま～ゆ連絡先　　前 田 光 俊
〒386-0041 上田市 秋和 503-6
TEL 0268- 27-1230
ホームページ
http://mayu.lolipop.jp/santo/
蚕都くらぶ・ま～ゆ　で検索